



# Red Hat JBoss Operations Network 3.3

## 3.3 リリースノート

Red Hat JBoss Operations Network の重要なリリース情報



## Red Hat JBoss Operations Network 3.3 3.3 リリースノート

---

Red Hat JBoss Operations Network の重要なリリース情報

Jared Morgan  
jmorgan@redhat.com

Zach Rhoads  
zach@redhat.com

Ella Deon Ballard  
dlackey@redhat.com

## 法律上の通知

Copyright © 2015 Red Hat.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux<sup>®</sup> is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java<sup>®</sup> is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS<sup>®</sup> is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL<sup>®</sup> is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js<sup>®</sup> is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack<sup>®</sup> Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

## 概要

本リリースノートには、新機能、既知の問題、およびその他のテクニカルノートのリリース時に利用できる重要な情報が記載されて Red Hat JBoss Operations Network 3.3 います。

## 目次

<b>第1章 RED HAT JBOSS OPERATIONS NETWORK の前提条件および基本的なインストール</b> .....	<b>3</b>
1.1. サポート対象の設定情報	3
1.2. JBOSS ON のインストールまたはアップグレード	3
<b>第2章 RED HAT JBOSS OPERATIONS NETWORK 3.3 の新機能</b> .....	<b>4</b>
2.1. 機能拡張： DASHBOARD の NAME でアラートをフィルターする	4
2.2. 新機能： JBOSS ENTERPRISE APPLICATION PLATFORM のサーバーグループおよびドメインの事前定義された DYNAGROUP 式	4
2.3. 新機能： RECENT EVENTS PORTLET	4
2.4. 新機能： JBOSS ON UI での RED HAT ACCESS INTEGRATION	4
2.5. 新機能： JBOSS ENTERPRISE APPLICATION PLATFORM 6 プラグインは、新たに検出されるリソースの命名にホストコントローラー設定を使用します。	5
2.6. 新機能： JBOSS ON が JBOSS DIAGNOSTIC REPORTER をサポートするようになりました。	5
2.7. 新機能： JBOSS ON JBOSS ENTERPRISE APPLICATION PLATFORM 6 プラグインは現在バージョン管理されたデプロイメントをサポートします。	5
2.8. 新機能： JBOSS ENTERPRISE APPLICATION PLATFORM 6.2 および ABOVE でのパッチのサポート	5
2.9. 新機能： JBOSS ON 3.3 では、SSL を使用した JBOSS ENTERPRISE APPLICATION PLATFORM 6 への接続のサポート	5
2.10. 新規の FEATURE: ANT BUNDLE RECIPES の BUNDLE CONTENT HANDOVER	6
2.11. 新機能： JBOSS ENTERPRISE APPLICATION PLATFORM 6 のドリフト設定の監視	6
2.12. 新機能： JBOSS ON 3.3 では、SSH でのリモートエージェントインストールのサポート	6
2.13. 新機能： JBOSS ON 3.3 では、サーバーおよびエージェント設定ファイルでプロパティーの保護をサポート	6
<b>第3章 JBOSS ON 3.3 における構造変更</b> .....	<b>8</b>
3.1. JDK 6 が非推奨になる	8
3.2. JBOSS ENTERPRISE APPLICATION PLATFORM 6.3 との統合	8
3.3. JBOSS ENTERPRISE APPLICATION PLATFORM 6 プラグインの UI 改善	8
3.4. ORACLE 12C のサポート	8
3.5. 更新されたルックと DIGEL	8
3.6. JBOSS ENTERPRISE APPLICATION PLATFORM 6 プラグイン： JBOSS ENTERPRISE APPLICATION PLATFORM スタンドアロン設定ファイルへの JVM ヒープ引数	9
3.7. グループにおけるメトリックグラフ制限の増加	9
3.8. エージェントのアップグレードおよび更新プロセスで、カスタム AGENT-CONFIGURATION.XML および LOG4J.XML ファイルを場所内に予約	9
3.9. ANT BUNDLE RECIPE ELEMENTS RHQ:URL-ARCHIVE AND RHQ:ARCHIVE NOW SUPPORT THE "DESTINATIONDIR" 属性	9
3.10. JBOSS ON AGENT UPGRADE NOW PRESERVES CUSTOM SCRIPTS	9
3.11. ロールなしのログインを有効化するための追加設定	10
3.12. DOMAINDEPLOYMENTS メニューからサーバーグループへのアプリケーションデプロイメントの管理	10
3.13. JBOSS ON 3.3 では、ストレージノードのスナップショットの設定可能なスナップショットおよび保持ストラテジーのサポート	10
3.14. JBOSS ON 3.3 BETA のドキュメント	10
3.15. JBOSS ON 3.3 BETA のサポートレベルおよびバグレポート	10
<b>第4章 本リリースのその他の変更点</b> .....	<b>12</b>
4.1. バグ修正	12
4.2. 既知の問題	29
4.3. 機能拡張	30
<b>ドキュメント履歴</b> .....	<b>32</b>



# 第1章 RED HAT JBOSS OPERATIONS NETWORK の前提条件および基本的なインストール

Red Hat JBoss Operations Network でサポートされるプラットフォームの一覧は、に記載されています。  
<https://access.redhat.com/site/articles/112523> ます。

[バグを報告します。](#)

## 1.1. サポート対象の設定情報

### 1.1.1. 必要な Java バージョンの変更

JBoss ON では、2つのバージョンの Java がサポートされます。

- Java 6 (非推奨)
- Java 7

Windows ユーザーでは、32 ビット JDK に加えて、64 ビット JDK および JRE もサポートされるようになりました。

サポートされる構成の完全リストは、「JBoss ON でサポートされる構成」のページを参照してください。

[バグを報告します。](#)

### 1.1.2. サポートされる Web ブラウザーの変更点

JBoss ON では、テストに使用されるこれらのブラウザーが追加され、バージョン 3.3 でサポートされます。

- Firefox 17 ESR (新規)
- Internet Explorer 9 (新しい)

[バグを報告します。](#)

## 1.2. JBOSS ON のインストールまたはアップグレード

『インストールガイド』では、フルインストールおよびアップグレードの手順を提供します。最新バージョンの JBoss ON サーバーへのアップグレードに関する詳細は、「JBoss ON Server のインストール」および「JBoss ON サーバーおよびストレージノードのアップグレード」を参照してください。

[バグを報告します。](#)

## 第2章 RED HAT JBOSS OPERATIONS NETWORK 3.3 の新機能

このバージョンの JBoss ON では、リソースを管理するための JBoss ON のパフォーマンスを向上させる新機能と機能拡張の両方が導入されました。

[バグを報告します。](#)

### 2.1. 機能拡張： DASHBOARD の NAME でアラートをフィルターする

JBoss ON 3.3 ユーザーは、時間/日付および優先度のフラグに加えて、名前でダッシュボードでアラートをフィルターできるようになりました。この機能は、Recent Alerts、Resource Alerts、および Group Alerts ポートレットにあります。この新機能を使用するには、アラートポートレットの上部にある歯車アイコンをクリックします。アラートポートレットの使用に関する詳細は、『User Guide』の「[Viewing Alerts](#)」を参照してください。

[バグを報告します。](#)

### 2.2. 新機能： JBOSS ENTERPRISE APPLICATION PLATFORM のサーバーグループおよびドメインの事前定義された DYNAGROUP 式

JBoss ON 3.3 JBoss Enterprise Application Platform 6 プラグインには、既存の JBoss Enterprise Application Platform 6 のサーバーグループおよびドメインにマッピングする新しい DynaGroup Expressions が同梱されるようになりました。新しいドメインコントローラーまたはサーバーグループが追加されると、新しい DynaGroup Expressions も同期し続けます。これらの新しい DynaGroup 式は、さまざまなホストコントローラーおよびサーバーグループが含まれるドメイン全体で設定を管理する際に便利です。また、複数の JBoss Enterprise Application Platform 6 ドメインを管理する場合にも便利です。



#### 注記

これらの DynaGroup 式は編集可能ですが、プラグインが再インストールまたは更新されると変更が上書きされます。

[バグを報告します。](#)

### 2.3. 新機能： RECENT EVENTS PORTLET

ユーザーは、Recent Events Portlet を使用して Dashboard に直接 Recent Events が表示されるようになりました。

[バグを報告します。](#)

### 2.4. 新機能： JBOSS ON UI での RED HAT ACCESS INTEGRATION

Red Hat Access は JBoss ON UI に統合され、サブスクリイバーは新しいサポートケースの作成、既存のサポートケースの表示、および Red Hat カスタマーポータルで排他的なナレッジとソリューションを検索できるようになりました。サブスクリイバーは Red Hat Access を使用して、JBoss Enterprise Application Platform 6 プラグインと統合されている JBoss Enterprise Application Platform 6 およびその他の製品に対してケースを開くことや、JBoss ON UI から直接 JBoss ON UI から直接 JDR レポート（利用可能な場所）を添付することもできます。詳細は『ユーザーガイド』の「[Red Hat Access](#)」セクションを参照してください。

[バグを報告します。](#)

## 2.5. 新機能： JBOSS ENTERPRISE APPLICATION PLATFORM 6 プラグインは、新たに検出されるリソースの命名にホストコントローラー設定を使用します。

JBoss Enterprise Application Platform 6 プラグインは、新たに検出されたリソースに命名する際に host.xml の使用をサポートするようになりました。検出スキャンが新しいホストコントローラーリソースを検出すると、host.xml の「name」パラメーターに基づいてリソースが名前が付けられます。インポート済みのリソースには影響を受けません。

[バグを報告します。](#)

## 2.6. 新機能： JBOSS ON が JBOSS DIAGNOSTIC REPORTER をサポートするようになりました。

JBoss ON 3.3 Sever および JBoss ON JBoss Enterprise Application Platform 6 プラグインは、JBoss Diagnostic Reporter(JDR)をサポートし、統合するようになりました。これにより、JBoss ON では JBoss Enterprise Application Platform 6 の管理対象インスタンスの詳細と診断情報を収集およびログに記録できます。これにより、より高度なトラブルシューティングが可能になり、サブスクリプションをお持ちの場合は、サポートケースを作成する際に、Red Hat サポートにより多くの情報を提供できます。

[バグを報告します。](#)

## 2.7. 新機能： JBOSS ON JBOSS ENTERPRISE APPLICATION PLATFORM 6 プラグインは現在バージョン管理されたデプロイメントをサポートします。

JBoss ON 3.3 および JBoss ON JBoss Enterprise Application Platform 6 プラグインは、Versioned Deployments またはアーティファクト名にバージョン番号が含まれるデプロイメントをサポートするようになりました。これにより、JBoss ON はバージョン化されたアーティファクト（例：myapp-1.0.war および myapp-1.1.war）を同じリソースの異なるバージョンとして認識および追跡できます。JBoss ON 3.3 はアーティファクト内の Versioned Subdeployments（EJB、SAR、WAR、データソースなど）もサポートします。詳細は、『[ユーザーガイド](#)』の「[Versioned Deployments and Subdeployments](#)」セクションを参照してください。

[バグを報告します。](#)

## 2.8. 新機能： JBOSS ENTERPRISE APPLICATION PLATFORM 6.2 および ABOVE でのパッチのサポート

JBoss ON 3.3 には、JBoss ON UI から JBoss Enterprise Application Platform 6.2 以降にパッチを適用するためのサポートが追加されました。これにより、ユーザーは JBoss ON が管理するサーバーおよび累積パッチを JBoss Enterprise Application Platform 6.2 以降に適用できます。詳細は、『[ユーザーガイド](#)』の「[JBoss Enterprise Application Platform 6.2 および Above のパッチ適用](#)」を参照してください。

[バグを報告します。](#)

## 2.9. 新機能： JBOSS ON 3.3 では、SSL を使用した JBOSS ENTERPRISE APPLICATION PLATFORM 6 への接続のサポート

JBoss ON 3.3 には、JBoss ON JBoss Enterprise Application Platform 6 プラグインを使用した一方向および双方向 SSL を使用した JBoss Enterprise Application Platform 6 管理インターフェースへの接続のサポートが追加されました。これは、JBoss ON を使用して JBoss Enterprise Application Platform スタンドアロンサーバーとドメインの両方を監視および管理する場合に追加のセキュリティーを提供します。詳細は、『[ユーザーガイド](#)』の「[JBoss Enterprise Application Platform 6 サーバーのセキュア接続設定の変更](#)」を参照してください。

バグを報告します。

## 2.10. 新規の FEATURE: ANT BUNDLE RECIPES の BUNDLE CONTENT HANDOVER

JBoss ON 3.3 では、`rhq:handover` タグを使用して Ant Recipes の Bundle Content Handover に対応するようになりました。これにより、バンドルターゲットリソースがバンドルデプロイメントに参加できるようになりました。これにより、JBoss Enterprise Application Platform 6 ドメインモードでのデプロイメントなどの機能が可能になります。詳細は、『[ユーザーガイド](#)』の `rhq:handover` セクションを参照してください。

バグを報告します。

## 2.11. 新機能： JBOSS ENTERPRISE APPLICATION PLATFORM 6 のドリフト設定の監視

JBoss ON 3.3 は、JBoss Enterprise Application Platform 6 スタンドアロンおよびドメインモードでのドリフト設定の監視をサポートするようになりました。これにより、JBoss ON は JBoss Enterprise Application Platform 設定ディレクトリーに加えられた変更やファイルの更新を監視および追跡できます。これには JBoss Enterprise Application Platform 6 CLI および JBoss Enterprise Application Platform 管理コンソールによる変更が含まれます。これにより、JBoss ON はアプリケーションやデータソースなどの JBoss Enterprise Application Platform 6 へのデプロイメントを監視および追跡することもできます。詳細は、『[User Guide](#)』の「[Drift Configuration Monitoring on JBoss Enterprise Application Platform 6 Resources](#)」を参照してください。

バグを報告します。

## 2.12. 新機能： JBOSS ON 3.3 では、SSH でのリモートエージェントインストールのサポート

JBoss ON 3.3 では、JBoss ON UI を使用して SSH 経由でエージェントインストールを実行できるようになりました。これにより、ユーザーはサーバーに直接ログインしなくても、エージェントをリモートでインストールできます。詳細は、『[インストールガイド](#)』の「[JBoss ON UI からのエージェントのインストール](#)」を参照してください。

バグを報告します。

## 2.13. 新機能： JBOSS ON 3.3 では、サーバーおよびエージェント設定ファイルでプロパティーの保護をサポート

JBoss ON 3.3 では、サーバーおよびエージェント設定ファイルのエンコーディングプロパティーのサポートが追加されました。これにより、サーバーまたはエージェントの設定ファイルを直接表示する際に機密情報が非表示になります。詳細は、『[Administration and Configuration Guide](#)』の「[Protecting Sensitive Information in the Server Configuration and Protecting Sensitive Information](#)」を参照してください。

バグを報告します。

## 第3章 JBOSS ON 3.3 における構造変更

Red Hat JBoss Operations Network 3.3 と 3.2 の間には、JBoss ON の使用およびエクスペリエンスに影響する構造的な変更がいくつかあります。

[バグを報告します。](#)

### 3.1. JDK 6 が非推奨になる

JBoss ON 3.3 は、Java Developers' Kit(JDK)6 をサポートする最終リリースを示します。JBoss ON の今後のリリースでは、JDK 7 以降のバージョンがサポートされます。

[バグを報告します。](#)

### 3.2. JBOSS ENTERPRISE APPLICATION PLATFORM 6.3 との統合

JBoss ON 3.3 は、セキュリティーや、このバージョンに実装されたバグ修正が含まれる JBoss Enterprise Application Platform 6.3 に構築されています。

[バグを報告します。](#)

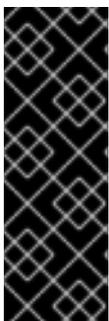
### 3.3. JBOSS ENTERPRISE APPLICATION PLATFORM 6 プラグインの UI 改善

JBoss ON 3.3 には、JBoss Enterprise Application Platform 6 プラグインのサブシステムを視覚的に表示できるようになりました。サブシステムはサブカテゴリで構成され、参照と対話が容易になりました。

[バグを報告します。](#)

### 3.4. ORACLE 12C のサポート

JBoss ON 3.3 は、バックエンドデータベースサービス向けに Oracle 12c に対応するようになりました。管理者は、Oracle 10g を使用して JBoss ON サーバーを設定できます（ただし、JBoss ON のサポートは非推奨）、11i および 12c。以前のリリースはサポートされていません。



#### 重要

Oracle 12c を JBoss ON のバックエンドとして設定する場合は、**RESOURCE** ロールはデフォルトで rhqadmin ユーザーに付与されないこと **UNLIMITED TABLESPACE** に注意してください。このシステム特権をユーザーに付与する方法は手動で行う必要があります。

詳細は、『『Red Hat JBoss Operations Network Installation Guide』』の「[Configuring Oracle](#)」セクションを参照してください。

[バグを報告します。](#)

### 3.5. 更新されたルックと DIGEL

JBoss ON 3.3 には、ユーザーインターフェース全体で更新されたルックアンドフィールがあります。これにより、ユーザビリティが向上し、JBoss ON が Red Hat 製品と整合したより一貫したユーザーエクスペリエンスを提供できるようになります。

[バグを報告します。](#)

### 3.6. JBOSS ENTERPRISE APPLICATION PLATFORM 6 プラグイン： JBOSS ENTERPRISE APPLICATION PLATFORM スタンドアロン設定 ファイルへの JVM ヒープ引数

JBoss ON JBoss Enterprise Application Platform 6 プラグインは、JBoss Enterprise Application Platform 6 起動シェルスクリプトに直接 JVM ヒープ引数の変更を保持するようになりました。起動シェルスクリプトに直接保存すると、これらの変更は JBoss ON 内外の一元的な場所に保存できます。これは、JBoss Enterprise Application Platform 6 の再起動が JBoss ON の外部から開始される状況で一貫性のある Java 環境を維持する場合に便利です。詳細は、『[User Guide](#)』の「[Changing JVM Heap Arguments in Standalone Mode](#)」を参照してください。

[バグを報告します。](#)

### 3.7. グループにおけるメトリックグラフ制限の増加

グラフに表示されるリソースの最大数のグラフ制限が 10 から 50 に増えました。

[バグを報告します。](#)

### 3.8. エージェントのアップグレードおよび更新プロセスで、カスタム AGENT-CONFIGURATION.XML および LOG4J.XML ファイルを場所内に 予約

JBoss ON 3.3 では、エージェントのアップグレードおよび更新プロセスにはカスタム **agent-configuration.xml** および **log4j.xml** ファイルが維持されるようになりました。以前のバージョンでは、更新プロセスでは、**agent-configuration.xml.custom** および **log4j.xml.custom** ファイルがファイルにコピーされていまし **log4j.xml.custom** た。この変更により、**--cleanconfig** オプションを使用してエージェントを再起動し、カスタム設定を維持できます。

[バグを報告します。](#)

### 3.9. ANT BUNDLE RECIPE ELEMENTS RHQ:URL-ARCHIVE AND RHQ:ARCHIVE NOW SUPPORT THE "DESTINATIONDIR" 属性

JBoss ON 3.3 では、**destinationDir** 属性のサポートが **rhq:url-archive** および **rhq:archive** Ant 要素に追加されました。設定 **destinationDir** により、アーカイブの保存先を指定できます。詳細は、『[ユーザーガイド](#)』の「[JBoss ON Ant Recipe Elements](#)」の項を参照してください。

[バグを報告します。](#)

### 3.10. JBOSS ON AGENT UPGRADE NOW PRESERVES CUSTOM SCRIPTS

エージェントのアップグレード中は、**\$RHQ-AGENT/bin** ディレクトリー内のカスタムスクリプト（.sh ファイルまたは .bat ファイル）が保持されるようになりました。これにより、ユーザーは手動で追加しなくても、JBoss ON Agent のアップグレード全体でカスタム開発スクリプトを保持することができま

す。

[バグを報告します。](#)

### 3.11. ロールなしのログインを有効化するための追加設定

JBoss ON 3.3 にはグローバルな設定が追加され、ロールが割り当てられていない既存のユーザーアカウントがログインできるかどうかを制御されるようになりました。この機能は、JBoss ON を LDAP ディレクトリーと統合する際に特に便利です。デフォルトでは、ロールが割り当てられていないユーザーアカウントはログインできます。

この設定は、**Administration** トップメニューをクリックし、**Configuration** テーブルのセクションに移動し、**System Settings** セクションの **Enable Login Without Roles** 設定を確認すると確認でき **General Configuration Properties** ます。

[バグを報告します。](#)

### 3.12. DOMAINDEPLOYMENTS メニューからサーバーグループへのアプリケーションデプロイメントの管理

JBoss ON 3.3 および JBoss ON JBoss Enterprise Application Platform 6 プラグインは、アプリケーションをサーバーグループにデプロイする機能と、JBoss Enterprise Application Platform 6 ドメインの **DomainDeployments** メニューから直接属するグループを調整する機能が追加されました。これにより、アプリケーションのデプロイ先を表示および更新するための単一の統合ロケーションが提供されます。

[バグを報告します。](#)

### 3.13. JBOSS ON 3.3 では、ストレージノードのスナップショットの設定可能なスナップショットおよび保持ストラテジーのサポート

JBoss ON は、ストレージノードの必要な間隔でのスナップショットのスケジュールや、JBoss ON UI からスナップショット保持ストラテジーを設定する機能をサポートするようになりました。スナップショットのスケジュールや保持ストラテジーの設定方法についての詳細は、『[管理および設定ガイド](#)』の「[ストレージノードのスナップショット](#)」を参照してください。

[バグを報告します。](#)

### 3.14. JBOSS ON 3.3 BETA のドキュメント

JBoss ON のベータリリースでは、利用可能な更新ドキュメントが限定されています。

- 本リリースノート
- 新しい JBoss ON サーバーのインストールおよびアップグレード手順、および `rhqctl` スクリプトの詳細を含む更新インストール『ガイド』
- メトリクスストレージノードの追加および管理に関する新しい情報を含む監視ドキュメントを更新しました。

[バグを報告します。](#)

### 3.15. JBOSS ON 3.3 BETA のサポートレベルおよびバグレポート

JBoss ON 3.3 Beta は、新機能の評価とパフォーマンスのテストに利用できます。

本リリースは、JBoss ON の新機能のプレビューとしての使用を目的としています。これには、収集されたメトリクスを保存する新しいメトリクスストレージノードなどの構造的な変更が含まれます。

これは JBoss ON の最終リリースではなく、JBoss ON の一般提供(GA)リリースと同じレベルのサポートの対象ではありません。



#### 注記

JBoss ON 3.3 ベータ問題の対応に関するサービスレベルアグリーメントはありませんが、サポートは商業的に妥当な範囲内で 2 営業日以内に報告された問題に対応できるように努めています。

JBoss ON 3.3 ベータ版では、不具合やその他の問題を報告できます。また、ご意見やご意見をお寄せください。

- 問題は、**Support** タブの下にある **Create a New Case** リンクの [カスタマーポータル](#) に記録されます。

**Red Hat JBoss Operations Network** 製品の詳細エリアからプロダクトを選択し、**3.3 Beta** バージョンを選択します。

- JBoss ON 3.3 Beta に報告されたすべての問題には、重大度の値が 4 である必要があります。
- JBoss ON ベータ版のサポートを受けるには、JBoss ON または管理された JBoss 製品に対する現在のアクティブなサブスクリプションがすでに用意されている必要があります。
- JBoss ON 3.3 ベータで特定された問題は、JBoss ON 3.3 GA では解決されません。

評価のために JBoss ON 3.3 Beta をインストールする場合は、JBoss ON 3.3 ベータから JBoss ON 3.3 GA へのアップグレードパスがないことに注意してください。JBoss ON 3.3 Beta サーバーが削除され、製品の最終バージョンを使用するようインストールされた JBoss ON 3.3 GA サーバーも新たに削除する必要があります。

[バグを報告します。](#)

## 第4章 本リリースのその他の変更点

### 4.1. バグ修正

#### plugin -- Other

**BZ#1127875 - プロセスサービスリソースは、プロセスが存在しなくなったり、piql/pid ファイルを変更した後も古いプロセスを監視し続ける**

JON "Platform Plug-in" のバグにより、「Process」リソースへの接続設定が無視される変更になりました。ユーザーが Process サービスの Connection Settings を変更した場合（例：PIQL クエリーや PID ファイルパスの変更）、プラグインは、このプロセスが終了またはエージェントを再起動するまで、変更前と同じプロセスの監視を続けます。ProcessComponent クラスが修正され、変更直後に Connection Settings を考慮するようになりました。プラグインは、変更後に Connection Settings によって表されるプロセスを即座に監視するようになりました。  
を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1127875](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1127875)

**BZ#1127876 - プラットフォームプロセスサービス CPU Percentage メトリクスは、実際の CPU 負荷測定と一貫性のない値を返します。**

監視対象のプロセスが存在しなくなったり、piql または pid のファイルプロパティまたは値が変更されると、CPU 使用情報を取得するために使用される Platform Management プラグインが、予測不可能な値を返しました。Platform Management プラグインの改善により、プロセスが削除されているインスタンスの処理が改善されました。ProcessInfo インスタンスがプロセスがダウンしていることが示されている場合、ProcessComponent は測定レポートにデータを追加しなくなりました。  
を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1127876](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1127876)

#### ドキュメント

**BZ#1073483: 『Configuring JBoss ON Servers, Agents, and Storage Nodes』の「Incorrect URL」**

『インストールガイド』の「Managing Databases Associated with JBoss ON」セクションの誤った URL に問題がある問題は、管理ツールページの新しい URL 構造をミラーリングしませんでした。ユーザーは docs で指定された URL にアクセスできず、ユーザーに対して不必要な混乱が生じました。このユーザーガイドの URL のインスタンスはすべて、最初に報告された問題を修正する正しい URL パターンに変更になりました。  
を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1073483](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1073483)

**BZ#1118224 - アラートが発生した CLI スクリプト通知を使用してサーバーをシャットダウンできません。**

サーバーは、CLI スクリプトの通知を発生するアラートへの応答として実行することを許可します。サーバーでスクリプトを実行するパーミッションがあるユーザーは、この方法を使用してサーバーをシャットダウンできます。これを回避するために、製品の旧バージョンで Java セキュリティーマネージャーが有効になっていました。ただし、これにより、推定よりもパフォーマンスへの影響が大きくなっていました。このため、セキュリティマネージャーはデフォルトでオフになりました。セキュリティマネージャーを再度有効にするには、bin/internal/rhq-server.{sh,bat} ファイルの -DXXXjava.security.manager の 3 つの「X」を削除し、サーバーを再起動します。  
を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1118224](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1118224)

**BZ#1164362 - インストールガイドのセクション「Linux へのサーバーのインストールが誤って、rhqctlではなく rhqctl.sh を参照」**

rhqctl スクリプトが『インストールガイド』でどのように記述されたかに問題があるため、Linux でスクリプトを正常に実行した場合に問題が生じました。「Basic Setup: Installing the Server on

Linux」セクションの修正により、コマンドの最後に末尾の.sh が削除され、最初に報告された問題が修正されるようになりました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1164362](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1164362)

**BZ#1138686: JBoss ON インストールガイドを更新して、JBoss ON コンポーネントをインストールする際に、推奨されるディレクトリー構造を含めるように更新する必要があります。**

JBoss ON エージェントは書き込み可能なディレクトリーにインストールする必要がありますが、これは製品ドキュメントで説明されませんでした。『インストールガイド』の新たなセクションでは、[access.redhat.com/documentation/en-US/Red\\_Hat\\_JBoss\\_Operations\\_Network/3.3/html-single/Installation\\_Guide/index.html#before-agent-install](http://access.redhat.com/documentation/en-US/Red_Hat_JBoss_Operations_Network/3.3/html-single/Installation_Guide/index.html#before-agent-install) から入手できます。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1138686](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1138686)

**BZ#1135623 - Update instructions fails to show how old metric data can purged after migration/upgrade**

JBoss ON <3.2 から JBoss ON >=3.2 へのアップグレード手順のインストールおよびアップグレード手順は、リレーショナルデータベースからレガシーメトリクスデータを削除する方法に関する情報を提供しませんでした。ユーザーがこの手順を実行しない場合、レガシーデータはシステムに永続化され、多数のデータベース領域を使用し続けます。場合によっては、データベースのパフォーマンスに影響を及ぼす場合があります。この問題を解決するために、インストールガイドに複数の変更が加えられました。「アップグレードスクリプト」セクションに、「Options for Upgrading」サブセクションで説明する2つの追加のデータベース管理パラメーターが追加されました。「JON Server and Components のアップグレード」の手順には、ステップ8で特定のコールアウトがあり、「Options for Upgrading」セクションをチェックして、新しいパラメーターを認識するように求められます。このコンテンツは、[access.redhat.com/documentation/en-US/Red\\_Hat\\_JBoss\\_Operations\\_Network/3.3/html-single/Installation\\_Guide/index.html#upgrade-script](http://access.redhat.com/documentation/en-US/Red_Hat_JBoss_Operations_Network/3.3/html-single/Installation_Guide/index.html#upgrade-script) で確認することができます。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1135623](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1135623)

**BZ#1118072 - すべての rhq テーブルでストレージの復元手順が必要**

ストレージの復元手順で不足しているテーブルがすべて復元されないことが確認されました。

[https://access.redhat.com/documentation/en-US/Red\\_Hat\\_JBoss\\_Operations\\_Network/3.3/html/Admin\\_and\\_Config/storage-restore.html](https://access.redhat.com/documentation/en-US/Red_Hat_JBoss_Operations_Network/3.3/html/Admin_and_Config/storage-restore.html) の

手順の改善には、影響を受けるすべてのテーブルが含まれ、最初に報告された問題が修正されました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1118072](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1118072)

**BZ#1128770: 7.3.2 でオプションがない。エージェント起動オプション（JON サーバーおよびエージェントの設定）**

『Configuring JON Servers and Agents』の「Agent Start Options」の一覧にオプションがありませんでした。ユーザーは、--purgeplugins コマンドに関連する情報を表示できませんでした。新しいドキュメントには、--purgeplugins コマンドへの参照が含まれています。ユーザーは、コマンドとその説明を表示できます。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1128770](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1128770)

**BZ#1095805: JBoss ON Server での Heapsize の変更が doc ステップごとに機能しない**

『Configuring JBoss ON Servers, Agents, and Storage Nodes』の「Tuning the Server JVM」セクションに誤った環境変数が原因で、JBoss ON サーバーで heapsize の変更の問題が生じました。誤ったパラメーター RHQ\_CONTROL\_JAVA\_OPTS が RHQ\_SERVER\_JAVA\_OPTS で修正され、ヒープサイズが予想通りに変更されるようになりました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1095805](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1095805)

## plugin -- JBoss EAP 6

### BZ#1015334 - EAP 6 ホストコントローラーのドメインホストの更新により、管理対象サーバーが「管理不能」になる

EAP 6 ホストコントローラーの domainHost 属性が変更されると、ホストコントローラー経由で接続する管理サーバーが利用できなくなることが確認されました。これにより、新しい管理対象サーバーが検出されませんでした。ホストコントローラーは部分的にインベントリで機能していましたが、問題を更新または修正する方法のないドメインホストプロパティの値が読み取り専用であるため、その管理対象のサーバーに到達できませんでした。AS7 プラグインの修正は、必要に応じて host.xml から domainHost の読み取りを試行するようになりました。「domainHost」読み取り専用プラグインプロパティは非推奨となり、シナリオをより適切に処理するために新しい特性が導入されました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1015334](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1015334)

### BZ#1004977 - データソース設定の変更 SHOULD NOT require a complete reload/restart of EAP

多くの JON プラグインコンポーネントと同様に、データソースおよび XA データソースリソースタイプをサポートするエージェントプラグインコンポーネントは、ユーザーが GUI または CLI を使用してリソース設定を変更したときに設定プロパティを再適用するために使用されます。データソース設定の変更を保存した後、管理された EAP 6 スタンドアロンまたはドメインサーバーは、ユーザーが必要なプロパティしか変更しなくても「reload-required」状態になります。データソースおよび XA データソースリソースタイプをサポートするプラグインコンポーネントは、変更した設定プロパティのみを EAP 6 管理インターフェースのみに送信するようになりました。さらに、データソースの「Disable」操作には「Allow service restart」パラメーターが追加されています。これは、データソースが「Disabled」状態にある必要があるプロパティを変更する前にデータソースサービスを停止します。オーケストレーションユーザーは、EAP6 CLI または管理コンソールで使用するワークフローに従ってデータソースおよび XA データソースを管理できるようになりました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1004977](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1004977)

### BZ#1150667 - ArrayIndexOutOfBoundsException によってホストコントローラーの可用性がダウンしています。

Application Platform Plug-in Pack のバグにより、スレーブホストコントローラーの可用性を適切に検出する問題が生じました。スレーブホストコントローラーが検出されましたが、ArrayIndexOutOfBoundsException 例外で可用性チェックが失敗しました。この修正により、BaseServerComponent#findASHostName () に改善が加えられました。ホストまたはドメインコントローラーの状態が正しく記録され、最初に報告されたバグが修正されます。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1150667](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1150667)

### BZ#1080833 - EJB3 統計の有効化/無効化により、EAP 6 でのアプリケーションの再デプロイメント

EAP 6 JON プラグインで EJB3 統計を有効または無効にすると、設定変更が正しく保存されますが、EAP 6 の web アプリケーションは再デプロイされました。EJB3 サブシステムの修正は、現在の設定とは異なる設定プロパティのみを適用するようになりました。read-write config update により、更新を適用する前にリソース設定が読み取り、変更が適用されるだけです。この機能は、現在、簡易プローブのみをサポートします。EJB3 モニタリング設定が変更されると、EJB が完全に再デプロイされなくなりました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1080833](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1080833)

### BZ#998673 - Thread Pool keepalive-time-unit は許可された値を定義する必要があるため、ユーザーが推測する必要がなくなる

keepalive-time ユニットの許容値に関する JON UI の欠如により、keepalive-time を正しく設定しようとするとき混乱が生じました。keepalive-time unit フィールドは、以前の free-text フィールドが事前に定義された、対応しているメジャーダウンユニットに置き換えられました。お客様は、正確な

測定単位に数字を変換しなくても、キープアライブタイムの精度を簡単に設定できるようになりました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=998673](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=998673)

#### BZ#1034218 - EAR サブデプロイメントが DomainDeployment で検出されない

EAR が管理対象サーバーグループにデプロイされると、子（サブデプロイメント）が欠落していることが確認されました。同じ EAR がスタンドアロンサーバーにデプロイされた場合は、サブデプロイメントが存在しました。EAR サブデプロイメント（およびランタイム子サブシステム）が正しく検出できませんでした。EAP 管理プラグインは、standalone または managed server デプロイメントにデプロイされる EAR のようなサブデプロイメントを処理するようになりました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1034218](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1034218)

#### BZ#1072543: システムプロパティーが設定で使用されると EAP 6 データソースからメトリクスを収集できない

EAP 6 データソースからメトリクスを収集するのは、DMR から返されたデータタイプの処理、特にデータソース設定の最小および最大プールサイズの設定により失敗しました。ユーザーがシステムプロパティーを min-pool-size または max-pool-size の値として宣言した場合、DMR はプロパティーを解析できませんでした。修正によってデータソース設定ファイルのシステムプロパティーが処理され、最初に報告された問題が修正されました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1072543](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1072543)

#### BZ#1077943 - [AS7] プラグインのコネクションクリーナーのクラスローダーのリーク

EAP プラグインの ASConnection には、接続「cleaners」を実行して接続漏えいを防ぐ静的スレッドプールがあります。

プラグインコンテナが再起動すると、プラグインのクラスが再度ロードされました。ただし、静的スレッドプールは、コンテキストクラスローダーと以前のプラグインコンテナから実行されているスレッドをシャットダウンしませんでした。

古いスレッドは、エージェントの有効期間中に実行されるすべてのプラグインコンテナからすべてのクラスを保持するのに必要な、遅延した永続メモリーが原因でメモリー不足の例外が発生します。

AS7 プラグインに、上記のスレッドプールをシャットダウンするプラグインライフサイクルリソースが含まれるようになり、リークが発生しなくなりました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1077943](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1077943)

#### BZ#1091235 - max-connection 設定プロパティーが誤った定義に設定し、APR ではなく AJP を記述します。

JBoss EAP 6 のプラグインドキュメントにおける max-connection の定義が間違っていると、docs が AJP 接続について提案されたため、ユーザーが APR の最大接続を正しく設定することは困難でした。javadoc ソースは修正され、パラメーターの説明に正しいテキストが含まれるようになりました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1091235](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1091235)

#### BZ#1093370 - EAP 6 の JON プラグインが、移動した設定ディレクトリーに管理ユーザーを作成できない

EAP 6 プラグインの HostConfiguration.java のバグにより、「configuration」ディレクトリーがデフォルト以外の場所に設定されていると EAP が開始した場合に、Add User 操作が成功しませんでした。Add User 操作は、デフォルトの JBoss EAP スタンドアロンまたはドメインインストールを使用した開発のみを目的としていました。つまり、ディレクトリーを移動すると機能が破損しているわ

けではありません。プラグインの修正により、「configuration」ディレクトリーへのパスが正しく解決されるようになりました。これにより、ユーザーの追加操作が正常に実行されるようになりました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1093370](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1093370)

#### **BZ#1119240 - ホストコントローラーの host-slave.xml に http-interface を追加すると、JBoss ON Agent が認識されないため、ホストコントローラーの可用性が DOWN のままになる**

host-slave.xml ファイルの管理インターフェースが変更された場合、JBoss ON Agent は JON サーバーの検出を試みる際に「Invalid port: 0」エラーを出します。JON サーバーとエージェントを再起動してもエラーはクリアされませんでした。JBoss ON はホストコントローラーを検出しましたが、DOWN とマークされ、WARN ログイベントが agent.log ファイルに追加されました。プラグイン UI は、問題の indication を適切に表示していませんでした。修正により、リソースの利用可能なアイコンの横に警告アイコンが表示されるようになりました。クリックすると、「Unable to detect management port」の説明が含まれるウィンドウが表示されます。<server> で管理 HTTP インターフェースを有効にし、続いてこのリソースの接続設定で正しいポート番号を設定してください。ホストコントローラーの起動時に同じ警告が WARN メッセージとして agent.log ファイルに記録されます。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1119240](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1119240)

#### **BZ#1144146 - メッセージングキューおよびサブスクリバークライアントが公開されない**

エージェントプラグインコンポーネントは、HornetQ リソースのランタイムキューおよびトピックサブスクリバークライアントの監視をサポートしていませんでした。runtime-queue の新規リソースタイプが導入され、すべての操作および EAP によって公開されるすべてのメトリクスのサポートが行われます。ランタイムキューは頻繁に表示および非表示になる可能性があるため、リソースポリシーの不足により、必要に応じて存在しないランタイムキューを自動で作成できるようになりました。これらの修正により、トピックサブスクリバークライアントおよびランタイムキューをより効率的に監視および管理できるようになりました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1144146](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1144146)

#### **BZ#1042797: JBoss ON UI から管理インターフェースの「Inet Address」を変更できない**

IPv4 および IPv6 の inet アドレスの値を未設定で指定できなかったため、JON UI のバグにより、設定が永続化されず、Marshall 設定が失敗していました。JON UI の修正により、inet アドレスの変更が可能になり、最初に報告された問題が修正されるようになりました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1042797](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1042797)

#### **BZ#1095000 - EAP 6 WebConnectorComponent が誤ったデフォルトの max-connections プロパティ値を計算**

JBossWeb Connector リソースコンポーネントは、値が未定義であることを示す「Max Connections」の値を決定しようとしていました。そのため、基礎となるコネクタ実装がデフォルトの JIO コネクタタイプでない場合、プロパティに値が設定されませんでした。JBossWeb Connector リソースは計算された「Max Connections」値を設定しなくなり、コネクタ実装に基づいてデフォルトを判断するために JBoss EAP およびそのコネクタサブシステムにデフォーマーが設定されなくなりました。「Max Connections」が「未設定」の場合、最大接続に対するコネクタのデフォルト実装はオーバーライドされなくなりました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1095000](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1095000)

#### **BZ#955816 - deployDir trait が利用できないために EAP 6 スタンドアロンサーバーへの Bundle デプロイメントが失敗する**

ユーザーがプロビジョニングバンドルを使用して EAP 6 スタンドアロンにコンテンツのデプロイを試みると、deployDir 特性が管理リソースから最後に取得された後にエージェントが再起動された場合、デプロイメントは失敗し、その後シャットダウンされたか、他の理由で使用できなくなりました。これにより、バンドルデプロイメントに一貫性がありませんでした。デプロイメントが正常

に実行されることを確認するには、手動の介入が必要でした。特性の最新の値は、キャッシュされた特性の値ではなく、サーバーから取得されるようになりました。デプロイメントがバンドルデプロイメントで失敗しなくなりました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=955816](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=955816)

#### BZ#1128141 - host.xml の name 属性が空の場合に HostController が DOWN を取得する

host.xml ファイルの name 属性が空白のままになっていると、AS7 プラグインは HostController を認識しませんでした。HostController は、host.xml ファイルに名前が割り当てられていない場合にはデプロイされませんでした。HostController 名は、host.xml ファイルで指定する必要があるのではなく、API によって提供されるようになりました。HostController の名前が自動的に検出されません。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1128141](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1128141)

#### BZ#1021018 - EAP6 プラグインは rhq.agent.plugins.availability-scan.timeout 設定を無視し、デフォルトは 10 秒です。

EAP 6 プラグインのメソッド実行タイムアウトが rhq.agent.plugins.availability-scan.timeout 設定を無視していることが確認されました。EAP 6 のスキャンタイムアウト設定は永続化され、スキャンタイムアウトの動作が予測不可能になりました。今回の修正により、同期可用性チェックにコンテナの可用性タイムアウトが使用され、サーバーコンポーネントの非同期の可用性についての使用状況プラグイン設定が改善されました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1021018](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1021018)

## コンテンツ

#### BZ#1020874 - Add subscriptions button on platform->Content->Subscriptions タブに HTTP Status 404 in UI が表示される

Subscriptions フォームコードの問題により、Platform > Content > Subscriptions ビューの JBoss Patches リポジトリへのサブスクリプションの追加が HTTP Status 404 エラーで失敗していました。フォームコードの改善が、最初に報告された問題を修正する実装になりました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1020874](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1020874)

#### BZ#952665 - Create new 'Local Disk Storage Content Source' show IllegalStateException in UI

JON UI のバグにより、ユーザーが Administration > Content Sources > Create New に移動したら IllegalStateException が発生し、「Local Disk Storage Content Source」リンクをクリックしました。「Local Disk Storage Content Source」リンク動作の修正により、ユーザーは IllegalStateException を作成せずにリンクをクリックすることができるようになりました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=952665](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=952665)

## CLI

#### BZ#1038317: リモートクライアント API を使用すると、間接参照された JPA アノテーションに関するエラーメッセージが解決不可能になる

JON CLI は、JON CLI の実行時に使用されなかったため、Hibernate Core および Hibernate JPA jar には同梱されませんでした。JON のリモート Java クライアント開発者は、依存関係のリストとして CLI "lib" ディレクトリーのコンテンツを使用すると、「The type javax.persistence.GenerationType」などのエラー/警告が解決できません。これは、必要な .class ファイルから間接的に参照されます。JON CLI には Hibernate Core および Hibernate JPA JAR が同梱されるようになりました。リモートのリモート Java クライアントは、以前に報告された警告とエラーなしでコンパイルされるようになりました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1038317](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1038317)

**BZ#1135473: スクリプトがアラートで通知として実行されている場合は、CLI用の暗黙的な変数を利用できません。**

アラート通知として使用すると、CLI スクリプトは完全修飾名で宣言されない限り、リモート API エンティティを見つけることができませんでした。これは、スクリプトエンジンがエンティティパッケージの空のリストで初期化されるためです。スタンドアロン CLI 環境では、パッケージの一覧は、組み込み CLI で不可能な CLI インストールの「lib」ディレクトリーをスキャンして決定されました。そのため、アラート通知スクリプトの実行に失敗し、

"javax.script.ScriptException:org.mozilla.javascript.EcmaError: ReferenceError: 'ResourceCriteria' is not defined" と同様のエラーメッセージで失敗していました。スクリプトエンジンへの変更は、実行時にクラスパスをスキャンして判断されたパッケージの一覧で、埋め込み CLI を初期化するようになりました。リモート API エンティティを CLI アラート通知スクリプトで短縮名で宣言できるようになりました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1135473](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1135473)

**BZ#1131494 - ストレージノードを削除する CLI コマンドにより、トランザクションエラーが発生します。**

rhq-cli コマンドは、操作モードが INSTALLED のストレージノードを削除するはずでしたが、トランザクションエラーで失敗していました。ストレージノードは削除されませんでした。ストレージノードの変更に対応するために、トランザクション管理が修正されました。rhq-cli コマンドはエラーなしで実行され、INSTALLED ストレージノードを削除します。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1131494](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1131494)

**BZ#1001383 - getResourceConfiguration does not return the current resource configuration (BZ#1001383 - getResourceConfiguration が現在のリソース設定を返さない)**

getResourceConfiguration の呼び出しによって返されるリソース設定は、リソースの既存設定を反映しませんでした。その代わりに、configuration-discovery スキャンによって返される最新の設定が反映されていました。リモート API または CLI スクリプトを使用するクライアントは、直感的な方法で特定リソースのリソース設定を取得できませんでした。

ConfigurationManager.getLatestResourceConfigurationUpdate Remote API Javadoc の拡張機能が、取得機能をより直感的に説明するようになりました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1001383](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1001383)

## CLI、ドキュメント

**BZ#1143918: JBoss ON CLI を使用した新しいロギイベントソースの追加によってすべてのプロパティ（未設定のもの）が追加されていない場合に UI が破損する**

JBoss ON CLI を使用して新しいロギイベントソースが追加され、定義されていない特定のプロパティ（未設定の例外も含む）が追加されると、GUI で「Globally unc exception exception」が生成されました。この問題は、スクリプトが一見正しいロギイベントソースを追加した場合でも発生しました。変更しようとする（イベントソースの無効化など）エラーが発生する。この修正により、GUI ConfigurationEditor に改善が加えられ、未設定フィールドのデフォルト値が必要に応じて追加されるようになりました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1143918](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1143918)

## インストーラー

**BZ#1051299 - rhq.storage.nodes が定義されていない場合にインストーラーが NullPointerException で失敗する**

rhq.storage.nodes が rhq-server.properties からコメントアウトまたは削除された JBoss ON サーバーのインストールを試みると、インストーラーがストレージノードのインストールも実行していない場合に、インストールが失敗しました。プロパティチェックが改善され、より有用なエラー

出力が生成されます。このメッセージは、クラスターが利用できない場合に表示されるメッセージと同じで、ユーザーが調査を支援する原因をいくつか示します。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1051299](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1051299)

#### BZ#1089757 - シャットダウンプロセスにかかるインストールに失敗する 10 秒以上

インストーラーの実行中に、新しくインストールされたコンポーネントでシャットダウンが実行されます。

シャットダウンの遅延は 10 秒にハードコーディングされました。負荷がなく、ローカルで実行しているデータベースには 10 秒かかりますが、実稼働環境では数秒からシャットダウンする 1 分以上かかる場合があります。ターゲットコンポーネントがシャットダウンするのに 10 秒以上かかると、インストール全体がロールバックされ、中止されました。

今回の修正により、インストーラーのシャットダウンプロセスに多くの改善が加えられました。タイムアウトが 10 秒から 30 秒に増えました。さらに、システムプロパティーを設定して、`-D java オプション`を使用して `RHQ_CONTROL_ADDITIONAL_JAVA_OPTS` でタイムアウト値をカスタマイズできます。sysprop 名は `"rhqctl.wait-for-process-to-stop-timeout-secs"` です。このエリアの問題の追跡に役立つ追加のロギングも利用できます。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1089757](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1089757)

#### BZ#1096923 - rhqctl install failure の UNDO プロセスで、再インストール時に rhq.installed マーカーファイルがない

「rhqctl install」に失敗した場合は、障害を修復した後にコマンドを再実行しても、rhq.installed マーカーファイルの作成はトリガーされませんでした。これにより、rhqctl が新たにインストールしたサーバーを制御できません。今回の修正で vault 検出コードが強化され、初回読み取りでインストール時のタイミングの問題を回避し、インストール中にエラーが発生した場合は standalone-full.xml ファイルを元に戻します。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1096923](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1096923)

### インベントリー

#### BZ#1056562: サーバーバックエンドデータベースのバックアップ後に JON エージェントとサーバー間のインベントリーが同期しない

通常よりも長いデータベースが DOWN のままになった場合、JON エージェントとサーバー間の同期に問題があり、データベースに接続されているすべての JBoss ON エージェントが正しく DOWN のステータスを表示していました。この問題を修正する唯一の方法は、すべてのエージェントを再起動して、可用性のステータスを更新することです。JON UI の修正には、データベースとの通信が復元された後に JON エージェントが UP と表示されるようになりました。これにより、最初に報告された問題が修正されました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1056562](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1056562)

### インストーラー、ストレージノード

#### BZ#1080158: rhq-storage.properties のプロパティーの値に空の文字列を使用しません。

rhq.storage.hostname または rhq.storage.seeds プロパティーのコメントを解除して、rhq-storage.properties に未設定のままにすると、ストレージインストーラーは無効な設定を作成しました。cassandra.yaml の listen\_address および seeds プロパティーは空白のままにし、ストレージノードの起動に失敗していました。今回の修正で rhq-storage.properties の空の値を無視し、無効な設定が cassandra.yaml に導入されず、最初に報告された問題が修正されました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1080158](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1080158)

**BZ#1092707 - 異なるストレージノードのホスト名を使用して再インストールしようとする、JON インストーラーがまだ古いホスト名の使用を試みるためにインストールが失敗する**

ユーザーが JBoss ON インストールを実行してから、ストレージノードに使用されるデフォルトのホスト名を使用すると、ネットワーク内の他のマシンからアクセスできなくなると、リレーショナルデータベースをダンプして開始せずにこの問題を修正する方法がありませんでした。今回の修正により、ストレージノードが使用されていない限り、re-install/re-upgrade が既存のストレージノード定義を置き換えるようになりました。ストレージノードがまだリソースにリンクされていない場合は、代替の対象となることとなります。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1092707](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1092707)

**UI****BZ#1070981 - プラットフォームの使用状況レポートで使用される列の自動適合により、列データが読み取り不可能な**

UI でレンダリングされるグラフィックカラムの「Auto Fit All Columns」または「Auto Fit」ビューオプションにより、すべてのデータを表示する問題が生まれました。Report > Platform Utilization レポートにアクセスしようとし、選択した Auto Fit は CPU、Memory、および Swap 列が読み取り不可能なことを確認しました。コラムビューの動作に対する修正により、Auto Fit オプションが列のサイズを変更して、パーセント記号およびグラフに合うようになりました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1070981](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1070981)

**BZ#1084586 - Dashboard に水平スクロールバーがない**

Resource and ResourceGroup メトリクス D3 ポートレットの問題により、ポートレットの境界を超えるチャートデータが切断されました。Dashboard のすべてのデータを表示するためにビューのサイズを変更する方法がありませんでした。すべてのデータを表示できるように、ポートレットのサイズは手動で変更する必要がありました。Resource および ResourceGroup メトリクス D3 ポートレットに実装された修正により、グラフコンテナ div に固定幅が設定され、必要に応じて水平スクロールバーが表示されるようになりました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1084586](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1084586)

**BZ#1134445: データ収集されない期間のグラフを表示しようとするグローバルに除外される例外**

データを収集していない場合に一定期間メトリックグラフを生成する場合、JBoss ON UI に Globally Unc Exception が表示され、「lowestValue is null」メッセージが Message Center に表示されました。有効な値がない場合に測定定義 UOM を割り当てるようになり、報告された問題を修正できるようになりました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1134445](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1134445)

**BZ#1083894 - RED で書かれたストレージノードのクラスターステータス「NORMAL」は変更できません。**

タイムアウトしたストレージノードでジョブが実行されても適切に終了した場合、ノードのクラスターステータスは NORMAL として表示されますが、この UX パターンの意図的な赤いフォントを使用して記述されました。赤いテキストでジョブに関する根本的な問題が正しく表示されましたが、警告をクリアする方法がありませんでした。今回の修正でストレージノードの詳細ページに機能が追加されました。これにより、問題の詳細情報が提供され、このアクションが必要な場合や、エラーを確認して、赤いフォント色を削除するためにユーザーが操作を再実行できるようになりました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1083894](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1083894)

**BZ#994267 - LDAP ログインにより、無効なパスがサーバーログに表示されるエラーが表示される**

LDAP ユーザーとしてログインすると、サーバーは無効なパスが要求されたことを示すメッセージをログに追加していました。ユーザー認証ページが正しく表示され、その後正しくログインする

可能性がありました。しかし、誤ったログメッセージにより、ログでこれを検出した顧客が混乱する可能性があります。この修正は、JSF レイヤーからのログメッセージを無視します。誤ったエラーメッセージが表示されなくなりました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=994267](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=994267)

#### **BZ#1146266: 選択した時間範囲内のバケットごとに、高、低、および avg の値がすべて同じ場合に、メトリクスグラフが空になる**

JBoss ON メトリクスグラフは、値が見つからない場合や、60 以上の収集値が含まれる選択された時間範囲内で同じ値がある場合、期待通りに表示されません。許可される最小値および最大値が変更されました。メトリクスグラフに予想されるデータが表示されるようになりました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1146266](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1146266)

#### **BZ#1085956 - Topology Agents screen flickers on refresh**

Topology Agents 画面(Administration > Topology > Agents)画面で 50 以上のアクティブなエージェントの一覧を表示するバグにより、残りのレコードがビューに読み込まれている間にリストが flicker になりました。この flickering 状態が発生している間、2つの行数の値間でエージェントの合計数がフラッシュされます。この画面には、最初に読み込まれたエージェントがすべて表示されず、ユーザーに誤った情報が表示されていました。Topology Agents 画面の修正により、負荷の問題が修正され、最初に読み込まれるとすべての行が表示されます。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1085956](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1085956)

#### **BZ#1127871 - Suspect metrics report, column "Metric" sort doesn't sort doesn't sort to you click multiple times**

Suspect Metrics Report の「Metric」コラムのソート順序動作が原因で、ソートアイコンがソート順序の変更を示していましたが、UI はレコードを正しく表示しませんでした。大規模なレコードの結果 (1000 以上) では、ユーザーが一覧の末尾までスクロールし、リストの最初までスクロールすると、ユーザーがページを出るまで、ソート順序が正しく機能していませんでした。この修正により、レポートの動作が変更され、リソース、メトリクス、日付/時間、および Outlier フィールドでサーバー側のソートが可能になり、パフォーマンスが向上します。残りのフィールドはサーバー側でソートできず、クライアント側のソートは許可されません (すべてのデータがクライアントにロードされた後にソート可能)。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1127871](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1127871)

### ストレージノード

#### **BZ#1075575 - Remove OpenJDK warning during startup**

CastleandraDaemon.java によって生成された誤った WARN レベルのログエントリは、Red Hat でサポートされる構成で使用される場合に OpenJDK がサポートされない JVM ではないことを提案しました。今回の修正により、C\* ドライバーから誤った警告が削除され、C\* サーバーに、リリースと互換性のある正しい C\* ドライバーバージョンを使用するように指示するようになりました。誤った WARN レベルはログに表示されなくなりました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1075575](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1075575)

#### **BZ#1082805 - rhqctl upgrade is unable to perform data migration if estimate is first**

ユーザーが rhqctl アップグレードを実行し、--run-data-migrator の estimate パラメーターを渡すと、必要なツールを使用してデータをアップグレードできなくなりました。--run-data-migrator do-it コマンドの実行を試みると、インストール/アップグレードがすでに完了したことを示すことができません。今回の修正により、--run-data-migration 引数のオプションがすべて削除されるようになりました。引数の後に、ユーザーは none、estimate、または do-it を使用できなくなります。アップグレードコメントを呼び出す際に引数が使用されると、rhqctl はアップグレードプロセスの一環としてデータをすぐに移行します。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1082805](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1082805)

**BZ#1084056: Storage node has internal server metrics "Anti Entropy Sessions" marked as unavailable (ストレージノードには内部サーバーメトリクス「Anti Entropy Sessions」) が利用不可とマークされている。**

「Anti Entropy Sessions」 Internal Server Metric 統計が論理的に除外された際に監視されていることが確認されました。アンチエントロピーセッションメトリクスは、修復操作の開始後のみ検出され、別の Repair 操作が実行されるまで JON サーバーが再起動されたときに DOWN とマークされました。修正により、不足しているポリシーが「Anty Entropy Sessions」タイプ (単一の Bean) に追加され、これにより、Catalogandra または Storage Node サーバーの再起動後にユーザーが不足しているリソースの動作を設定できるようになりました。この追加ポリシーにより、ユーザーは MISSING のデフォルトの(DOWN)規則を、ユースケースに適したものに変更できます。この Bean は、修復ジョブの進捗に重要なテレメトリーを提供するため、修復ジョブの長期実行にとくに役に立ちます。C\* の再起動後に Bean が消えても、修復ジョブが呼び出されるとすぐに JON に再度表示されます。ユーザーは、サーバーの再起動ごとに、アンチエントロピーメトリクスを正しく収集できるようになりました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1084056](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1084056)

**BZ#1127868: 読み込み修復ストレージクラスターのジョブがタイムアウトすると、ストレージノードのスナップショットが生成されない**

読み取りストレージクラスターのジョブに関する問題により、ストレージノードのスナップショットがタイムアウトし、ジョブに関連付けられたジョブがキャンセルされました。今回の修正により、ロックの問題を回避するコードが改善され、問題が修正されました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1127868](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1127868)

## スクリプトの起動

**BZ#1088032 - Linux/Unix シェルスクリプトがインストールされておらず、存在しないと「readlink: not found」が表示される場合でも、readlink の使用を試みます。**

rhqctl などのランチャースクリプトを実行すると、readlink コマンドを使用して、スクリプトがシンボリックリンクである場合にスクリプトの実際の場所を解決します。デフォルトでは、(Solaris など) readlink がインストールされていないオペレーティングシステムを実行しているユーザーには、「./rhqctl: readlink: not found」のようなメッセージが表示されます。rhqctl に対する修正には、読み取りリンクが存在しない場合に警告メッセージが表示されるようになりました。これにより、ユーザーは適切なパッケージをインストールして、操作を続行できるようになりました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1088032](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1088032)

**BZ#1112240 - rhqctl not able to find new defined RHQ\_AGENT\_PIDFILE\_DIR in rhq-agent-env.sh**

pidFile 検出のある rhqctl ツールの問題により、RHQ\_AGENT\_PIDFILE\_DIR および RHQ\_SERVER\_PIDFILE\_DIR 環境変数は無視されます。このツールは環境変数によって指定された pidfile ディレクトリーを見つけることができないため、サーバーおよびエージェントを停止できませんでした。

この修正により、rhqctl から pidfile 検出が削除され、rhq-agent-wrapper.sh / rhq-server.sh を使用してサーバーおよびエージェントをシャットダウンするようになりました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1112240](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1112240)

## Database

**BZ#1093265 - アラート定義の更新の適用時にデータベースのデッドロックエラー**

ユーザーがアラートテンプレートに変更を加えて保存し、何かが失敗したにも関わらず、同じアラートテンプレートに2つ目の変更を行ったにも関わらず、更新が連続して続くとデータベースのデッドロックエラーが発生する可能性があります。今回の修正により、同時更新を防ぐボタンが長

くなるようになりました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1093265](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1093265)

#### BZ#1079303: バンドルの使用時の追加のデータベースサイズにより UI が失敗する

バンドルビューは、バンドルの詳細が要求されたときに、バンドルのすべてのバージョンの監査メッセージを取得していました。また、バンドルデプロイメント情報とバンドルの監査メッセージを含むデータテーブル間の関係にはインデックスがないため、バンドルビューページの表示時間が非常に長くなる可能性があります。場合によっては、読み込まれない場合もあります。ユーザーが古いバンドル情報の削除を試みると、トランザクションのタイムアウトにより削除に失敗していました。関係インデックスがバンドルデプロイメントおよび監査メッセージデータテーブルに追加されました。監査メッセージは、現在アクセスされているバンドルバージョンに対してのみ読み込まれます。また、バンドルバージョンの削除操作が実行されると、対応する監査メッセージが非同期的に削除されます。バンドルビューは、不要なデータを取得せずにより高速にロードされるようになり、削除操作ではバンドルのバージョンと同じタイミングでバンドルの監査メッセージを削除する必要がなくなりました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1079303](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1079303)

### Provisioning,UI

#### BZ#1107338: Bundle Files page does not display all required files (ページ制御がないために Bundle Files ページがすべての必要なファイルを表示しない)

Bundle Files ページでページコントロールがないと、バンドル内のすべてのファイルが UI に正しく表示されませんでした。今回の修正により、ページコントロールが Bundle Files ページに追加され、当初報告された問題が修正されました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1107338](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1107338)

### Core Server

#### BZ#1108833: HA 設定の 1 つの JBoss ON Server での LDAP の有効化は、再起動するまで別のサーバーに伝播されません。

HA 設定の 1 つの JBoss ON Server で LDAP が有効な場合、サーバーが再起動するまでグループ内の他のサーバーに LDAP が伝播されませんでした。これにより、ユーザーはグループ内の他のサーバーにログインできませんでした。修正により、HA ノードがシステム設定の変更を検出すると、JAAS ログインモジュールが再インストールされます。このチェックは、60 秒ごとに実行されます。HA ノードで LDAP 設定を有効または無効にした場合、他のサーバーは 60 秒で変更を認識するようになりました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1108833](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1108833)

#### BZ#1113591 - rhq.server.email.smtp-host プロパティの値の空白領域は削除されず、JBoss ON の起動時に java.net.UnknownHostException が発生します。

rhq-server.properties の rhq.erver.email.smtp-host プロパティ値に存在する空白文字は、JBoss ON の起動時に java.net.UnknownHostException が発生していました。今回の修正で、rhqctl start コマンドおよび install コマンドにチェックが追加されました。これは、ツールが rhq-server.properties ファイルの末尾のスペースを持つ行を見つけた場合に警告を出力するものです。を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1113591](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1113591)

#### BZ#1115813: [Enhancement] JBoss ON から送信されたメールは、JON MimeMessage で setFrom () が設定されていないため配信されません。

JBoss ON サーバーの問題に、カスタム Java メールサーバーを介して送信されたメッセージから MimeMessage の setFrom () が含まれていないと、メールが配信されませんでした。この問題を回避するには、JBoss ON サーバーからメールが送信される場合にカスタムメールサーバーで SMTP

ポリシーを緩和する唯一の方法になります。修正により、メッセージがカスタム Java メールサーバーから送信される前に `setFrom ()` を使用して From アドレスが正しく設定されるようになりました。電子メールが正しく送信されるようになりました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1115813](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1115813)

**BZ#11—7 - JVM 1.7.0\_40 以降を使用している場合、サーバーは、プロパティーが認識されないことを示す SAXParserImpl 解析エラーを記録します。**

JON エンタープライズコンテナに含まれる Xerces ライブラリーは `accessExternalDTD` または `entityExpansionLimit` プロパティーをサポートしませんでした。そのため、サーバー起動および `server.log` に ERROR メッセージが表示されました。Xerces ライブラリーは製品から削除され、バグにパッチが適用されたバージョンに置き換えられました。このバージョンは、当初報告された問題が修正されています。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1119927](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1119927)

**BZ#1108912 - CriteriaQueryRunner: could not initializeAlertDefinition when view recent alerts portlets からのサーバーログ警告**

Recent Alerts ダッシュボードポートレットがアラート履歴をロードすると、対応するリカバリーアラートもロードしようとしていました。アラートにリカバリーアラートがない場合は、「could not initialize recoveryAlertDefinition」 WARN レベルのログエントリーが `server.log` に追加されました。このメッセージは WARN ログメッセージとして誤って分類され、お客様には問題を修正するために必要なアクションが不明でした。Recent Alerts ダッシュボードポートレットの修正は、最初に報告された問題を修正する `EntityNotFoundException` インスタンスを取得し、無視します。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1108912](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1108912)

## アップグレード

**BZ#1080508: rhq-server.log-level が rhq-server.properties で明示的に定義されていないと、サーバーが起動しない**

`rhq-server.properties` ファイルに `rhq.server.log-level` プロパティーが指定されていないと、JON Server は起動できませんでした。このパラメーターを含まない JON バージョンから最近アップグレードしたお客様は、エラーメッセージ「Cannot resolve expression 'expression "{\$rhq.server.log-level}」というエラーメッセージが表示されています。`rhqctl install` パラメーターロジックの修正により、このパラメーターが存在しない場合にサーバーを起動できるようになります。ERROR ログメッセージも INFO ログメッセージにダウングレードされ、それに応じてログメッセージの重大度を再調整しています。お客様には、最初に報告された問題が発生しなくなりました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1080508](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1080508)

## コンテンツ、パフォーマンス

**BZ#1073691 - ContentServerServiceImpl.mergeDiscoveredPackages にあるインデックスの欠如と非常に大きなトランザクションによってコンテンツレポートを処理する際のテーブルデッドロックの問題**

`ContentServerServiceImpl.mergeDiscoveredPackages` のレガシーな問題により、同時実行 (deadlock) の問題により、コンテンツレポートが完了に失敗することがありました。この修正により、プロセスがスレッドセーフになり、全体的なパフォーマンス問題が修正されるさまざまな機能強化が導入されました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1073691](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1073691)

## 監視 - アラート

**BZ#1119331 - Job Misfire handler fails: AlertAvailabilityDurationJob' job:Job class must implement the Job interface**

Quartz ジョブサービスから EJB タイマーへの可用性期間のスケジュール方法へのホットフィックスの変更により、ホットフィックスが適用される前にスケジュールされたジョブが生じました。しかし、サーバーのシャットダウン時に評価または有効期限が切れていないため、Job Misfire ハンドラーエラーを生成するために。この修正は、残りの可用性期間ジョブを考慮し、新しいスケジュールリングメカニズムを満たすジョブを変更するようになりました。  
を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1119331](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1119331)

**Monitoring -- Other,UI****BZ#1126495 - Graphs fails to render with 'java.lang.IllegalArgumentException: lowValue' in log (グラフが 'java.lang.IllegalArgumentException: lowValue' でレンダリングに失敗する)**

測定が遅れていた問題によりグラフが表示されず、メトリクスを表示できませんでした。lowValue IllegalArgumentException も生成されました。無効なメトリクスがどのように処理されるかの修正が実装され、当初報告された問題が修正されました。  
を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1126495](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1126495)

**エージェント****BZ#1128210 - 1つのエージェント用に2つのプラットフォームが作成され、1つの Java 1 Linux**

エージェントのネイティブライブラリーが無効または再度有効化されている場合、2つの関連付けられたプラットフォームインスタンスで、いずれかのサーバーが作成されました。2番目に検出されたプラットフォームをインポートした後、両方のリソースを監視できませんでした。今回の修正でロギングが NativeSystemInfo に追加され、Java プラットフォームが選択された理由を検出できるようになりました。  
を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1128210](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1128210)

**BZ#1124619 - Agent Update prompt-command are executed 5 分後に RHQ Agent 操作が呼び出される**

Agent prompt --update コマンドを使用すると遅延が生じました。更新アクションは、--update コマンドが実行されるまで数分後に行われませんでした。--update コマンドは Update Agent 操作に置き換えられました。更新操作は、リモートエージェントですぐに実行されます。  
を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1124619](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1124619)

**BZ#1127873: エージェントの設定 export コマンドは、無効な XML ファイルを生成します。**

JON エージェントの 'config export' コマンドは、アップストリームコードにリグレッションが発生したために無効な XML ファイルを生成し、ファイルから DOCTYPE および DTD 宣言を誤って削除していました。DOCTYPE および DTD がいない場合、無効な XML ファイルが作成され、解析時に Java Preference システムによる検証に失敗していました。今回の修正により、発生したリグレッションが修正され、有効な設定ファイルのエクスポートの問題が解決されました。  
を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1127873](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1127873)

**Core Server、Performance****BZ#1133112: 親に多くの子がある場合に Inventory Merge が遅く、大量のメモリーを消費する**

監視対象のサーバーに数千もの EJB がデプロイされている場合、サーバーは単一の親に大きな子カーディナリティーがある状況を作成しました。インベントリーのマージは遅くなり、これらの条件下で大量のメモリーを消費していました。今回の修正により、インベントリーのマージ時に子

セットが不必要にプルされないようにします。インベントリーのマージプロセスは、大規模な EJB デプロイメントにおいてより効率的になりました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1133112](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1133112)

## Core Server、Documentation、Monitoring - Alerts,UI

### BZ#1146096 - Alert definition/notifications show with unknown configuration

アラート通知の定義が無効になると、GUI に通知定義が不明なものとして表示されることが確認されています。この修正により、サーバー側のアラート通知コードに改善が加えられました。エラーメッセージに、無効なアラート通知の問題を記述する情報が表示されるようになりました。その他の通知の定義は影響を受けず、それらのアラート通知は正常に表示されます。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1146096](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1146096)

## plugin -- JBoss EAP 5

**BZ#790101 - as5 plugin: "Client JAR [file:/foo.jar] does not exist or not readable (注, this JAR は一部のアプリケーションサーバーバージョンでは必要ありません) ." 警告は、対応する jar を必要としない AS/EAP バージョン用にログに記録しないでください。**

JON のバージョンに特定の JAR が必要ない場合、「Client JAR does not exist or is not readable (注, this JAR may not be required for some app server versions)」警告が、サーバーが検出されるたびにログに記録されるか、または再検出されます。これにより、ログに不必要な情報が生じ、ログレベルの重大度によりエラーが懸念されました。修正により、WARN レベルのメッセージが DEBUG レベルに変更されました。存在しない JAR と読み取り不可能な JAR を区別することはできませんが、DEBUG ログレベルをアクティベートすると、最初に報告された動作が特定され、さらに問題を調査できます。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=790101](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=790101)

**BZ#885848: WAR/EAR デプロイメントを展開対象から展開されていない (またはその逆) に変更すると、リソースが常に DOWN/Unavailable になります。**

初期検出後に **Deployment Name** を読み取り専用にする、最初にデプロイされた後に WAR または EAR デプロイメントを展開 (またはその逆) に変更すると、リソースが常に DOWN または Unavailable になります。リソースの監視や管理はできませんでした。修正により、接続設定の "deploymentName" 属性が削除され、deploymentKey 属性が追加されました。この属性は、コンポーネントの起動時にのみロードされます。または NoSuchDeployment が原因で停止すると、属性が読み込まれます。今回の修正の一環として、Monitoring/Calltime ページの Refresh ボタンの改善も実装されています。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=885848](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=885848)

**BZ#1077412 - 再起動の失敗時に EAP 5 リソースでの再起動操作が失敗しない**

コマンドのシャットダウンまたは start 部分で障害が発生した場合、AS5 プラグインの再起動操作が失敗しませんでした。再起動操作は、既存のプロセスが実行中で、再起動されなかった (シャットダウンが失敗して起動に失敗した) 状況に関係なく成功を報告しました。Server コンポーネントクラスに対する修正は、停止または起動のサブタスクを考慮に入れます。サブタスクの結果にエラーメッセージがある場合、「restart」操作は失敗し、このメッセージを報告します。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1077412](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1077412)

## リソースのグループ化

**BZ#1118091: RHQ Agent リソースが一意のリソースキーが原因でリソースグループで自動クラスター化されない**

RHQ エージェントがリソースキーとして管理エージェントの名前を使用すると、各エージェントがリソースグループナビゲーションツリー内の個別のリソースとして表示されます。管理エージェントがプラットフォームリソースキーと同じ名前を持つ場合、エージェント検出は、新たに検出されたエージェントのリソースキーに RHQ Agent の値を割り当てるようになりました。エージェントには、どのプラットフォームであるかに関わらず、デフォルトでは同じリソースキーがあります。これにより、エージェントは自動クラスター化され、リソースグループナビゲーション true の単一ノードとして表示されます。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1118091](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1118091)

## inventory,Plugin -- JBoss EAP 6

**BZ#1112733: インベントリにアウトバウンドソケットバインディング ref を追加した EAP 6 サーバーが、JBoss ON Server リソース(RHQ Server)のメール設定に同じバインディングを誤って追加**

追加のアウトバウンドソケットバインディング参照を持つインベントリに EAP サーバーを追加すると、すべての EAP サーバーのメール設定に同じバインディングオプションが追加されました。Outbound ソケットバインディングリファレンスには、インベントリに追加された EAP インスタンスで利用可能なすべての値に対するラジオボタンが表示されました。別の EAP から誤ったオプションを選択した場合は、設定が正常に保存され、EAP サーバーが再起動すると、「依存関係の不足」例外が発生し、メールがサーバーから送信されなくなりました。利用可能なソケットバインディングオプションの選択に使用されるクエリーは、設定されたインスタンスに限定されていました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1112733](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1112733)

## エージェント、Launch スクリプト

**BZ#1148186 - rhq-agent-wrapper の config および cleanconfig コマンドソースの RHQ\_AGENT\_START\_COMMAND により失敗の原因**

ユーザーは、RHQ\_AGENT\_START\_COMMAND 値の su コマンドまたは sudo コマンドを使用して、JBoss ON rhq-agent-wrapper で config および cleanconfig コマンドを使用できませんでした。rhq-agent-wrapper でこれらのコマンドを実行する際に、JBoss ON でエラーが発生しました。RHQ\_AGENT\_START\_COMMAND の値に環境変数フィールドが追加されました。RHQ\_AGENT\_START\_COMMAND の値は、su コマンドまたは sudo コマンドで使用して JBoss ON を起動できます。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1148186](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1148186)

## Monitoring -- Other

**BZ#1125439 - MeasurementScheduleManagerBean.findSchedulesByCriteria fails to duplicate baselines for single schedule\_id (単一スケジュール ID のベースラインの重複により MeasurementScheduleManagerBean.findSchedulesByCriteria が失敗する)**

リソーススケジュールにアクセスしようとする時、schedule\_id 変数に存在するベースラインが重複しているため例外が発生します。スケジュールはロードされず、JBoss ON はメトリクスデータを取得できませんでした。スケジュールの重複ベースラインを検出するために、固有の識別子インデックスが criteria.schedule の値に追加されました。スケジュールが予想通りに読み込まれるようになりました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1125439](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1125439)

**BZ#1064506 - Dashboard empty のグループメトリックグラフ**

Dashboard で Group Metric グラフの表示を最大化すると、互換性のあるグループのサーバーグラフを表示する際にデータの欠落が生じていましたが、個別のリソースには表示されませんでした。Group Metric Chart ポートレットの改善により、最初に報告された問題が修正されます。ユーザー

は、サーバーのデータを互換性のあるグループに正しく表示できるようになりました。  
を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1064506](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1064506)

## plugin -- JBoss EAP 6,UI

**BZ#1127869 - DataSource および XADDataSource スタンドアロンおよびプロファイルコンポーネントは、JAR が EAP サーバーにデプロイされた場合に設定できません。**

無効な値を含む管理対象デプロイメントの Driver\_Name プロパティに問題があるため、ユーザーは DataSource および XADDataSource コンポーネント設定を更新できません。3つ以上の JAR がインストールされており、現在の設定値が JAR のいずれかの名前と等しくない場合は、DataSource リソースの設定ページに移動するとバナーエラーが発生しました。4つ以上の JAR がインストールされている場合は、プロパティがラジオボタンからドロップダウンリストに変わりました。この場合、エラーは表示されません。ターゲットドライバーがモジュールとしてインストールされた場合や、JBoss EAP サーバー設定に対応するドライバーエントリーがある場合は、ドロップダウンにリストされませんでした。また、この設定も更新されませんでした。修正によりデータソース設定で適切な JDBC ドライバーを選択できるようになり、報告された問題を修正できるようになりました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1127869](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1127869)

## ユーザビリティ

**BZ#1127872 - Exporting Suspect Metrics レポートにより、「Out of Range Factor(%)」列の空白が表示されます。**

Suspect Metrics Report の CSV エクスポートコードのバグにより、エクスポートされたレポートデータが「Out of Range Factor(%)」列データにありませんでした。CSV エクスポートコードに関する根本的な問題が修正され、エクスポート時に列データが含まれるようになりました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1127872](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1127872)

## プラグイン -- Apache,Usability

**BZ#1127874 - Apache httpd VirtualHost ServerName 値はインベントリーでリソース名に使用する必要がある**

JBoss ON は、httpd.conf 仮想ホスト定義で指定された Apache Virtual Host ServerName を反映していませんでした。このため、JBoss ON では Apache Virtual Host が正しく表示されなくなりました。(すべての仮想ホストで同じ名前または IP アドレスが表示されました)。仮想ホストリソース名は、指定された ServerName ではなくマシン名として表示されました。この修正では、Apache プラグインの動作を変更して、ServerName と VirtualHost の組み合わせを resourceName の最初の優先度として選択し、必要に応じて ServerName にフォールバックするようになりました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1127874](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1127874)

## プラグイン -- Apache

**BZ#844235 - JON smnp モジュールがカーネル警告を生成する**

SNMP モジュールをコンパイルするお客様のために、`#ifdef` マクロが C コードに誤って含まれていることが判明しました。不要なカーネル警告が無作為にスローされ、SNMP モジュールの実行中にログに表示されました。今回の修正で、SNMP モジュールをコンパイルするお客様に提供された C コードが更新され、誤った `#ifdef` 行を削除できるようになりました。これにより、最初に報告された誤ったカーネル警告が回避されます。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=844235](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=844235)

バグを報告します。

## 4.2. 既知の問題

### ドキュメント

**BZ#1141734 - Solaris 10 および Solaris 11 x86 では JON エージェントのネイティブサポートに対応していません。**

Solaris 10 および Solaris 11 x86 システムでは、エージェントのネイティブサポートはサポートされません。EAP 5 は Solaris 10 (x86、x86\_64、sparc64)、および EAP 6 は Solaris 10 と Solaris 11 (x86、x86\_64、sparc64) でサポートされていますが、JON エージェントはこれらのプラットフォームに対してネイティブサポートを提供しません。サポート対象のプラットフォームについての詳しい情報は、「[JON のインストールとアップグレードガイド](#)」を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1141734](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1141734)

**BZ#1133590 - Unable to login in 'Red Hat Access' in IE (IE#1133590: 「Red Hat Access」にログインできない)**

Microsoft Internet Explorer Cross Origin Resource Sharing(CORS)サポートのある既知のバグにより、HTTP 接続を介してユーザーが JON にログインしないようにし、Red Hat Access プラグインを含む i frame の HTTPS リンクに従っていました。Microsoft Internet Explorer を使用して JBoss ON 経由で Red Hat Access にアクセスしない以外に、この問題に対する回避策はありません。を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1133590](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1133590)

### アップグレード

**BZ#1139765 - metrics\_index および anti Entropy Sessions リソースが jon3.3.er2 にアップグレードした後に停止**

4つのリソース (metrics\_index、one\_hour\_metrics、6\_hour\_metrics、symmetric\_four\_hour\_metrics) は、アップグレード後にダッシュボードでダウンとマークされます。更新中に一部のリソースが (目的上) 存在しなくなり、不足していると表示されるようになりました。リソースの録画したデータは依然として存在し、不足しているリソースページで表示できます。を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1139765](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1139765)

### UI

**BZ#1138688: [windows] unable to log in JON from FF (FF から JON にログインできない)**

Mozilla Firefox ブラウザークロックがサーバーロックと長い時間に同期しなくなった場合、ユーザーがログインできませんでした。これは、ユーザーが UI から即座にログアウトするためです。修正により、コンピューターロックが正しく同期され、ユーザーが正しくログインできるようになりました。を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1138688](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1138688)

**BZ#1166324 - Sizeken Doc Link in JON 3.3 CR03**

Help ページの /#Help/Section1/Section1Item2 領域の Documentation Set リンクの URL リダイレクトに関する問題により、リンクが 404 になりました。現在、JBoss ON 3.3 ドキュメントには簡単にアクセスできません。この問題を回避するには、正しい URL(<https://access.redhat.com/documentation/en->

US/Red\_Hat\_JBoss\_Operations\_Network/3.3/)を手動で開きます。ヘルプタブのその他のドキュメントリンクはすべて正常に機能しています。リダイレクトの問題に対する修正は現在プロモキュレートされており、2014年11月末までに実装される予定です。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1166324](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1166324)

バグを報告します。

## 4.3. 機能拡張

### ストレージノード

#### BZ#1074633 - RFE: ストレージノードのスナップショットの管理

スナップショットは、計画メンテナンス中に週に生成され、ノードのデプロイ時（アンデプロイ）です。スナップショットは、SSTable ファイルへのハードリンクで構成されており、それ自体ではディスク領域はほとんど消費されません。

圧縮時に SSTable が削除されると、SSTable がスナップショットに含まれていると領域が回収されませんでした。この動作により、SSTable データは時間の経過とともに構築され、受け入れられないレベルになりました。この問題は、UI でスナップショットを管理するメカニズムがないためです。

複数の修正が製品に含まれるようになりました。ストレージノードでディスク領域が不足しているサーバーで問題に対処するために、スナップショットは週にスケジュールされたジョブの一部ではなく、デフォルトでは無効になっています。これを有効にすると、スナップショットを利用可能なストレージ領域で別の場所にコピーできるようになりました。ストレージクラスターのスナップショットを管理するためにサーバー側の機能が実装されました。システム設定が導入されました。これは、ストレージ管理ページから更新できます。また、ストレージクラスターのスナップショット管理を有効にして無効にしたり、cron 式を設定して管理タスクを定期的に行うことができます。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1074633](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1074633)

### Database,Operations

#### BZ#1115725 - 古い履歴をパージする簡単な方法で、操作履歴のバインドが継続されます。

操作履歴をパージし、データベースのパフォーマンスを向上させ、テーブル領域の問題を減らすことができるようになりました。この機能により、操作履歴パージがデータパージジョブに追加されます。「Delete Operation History Older Than」という新しいシステム設定が Administration > Configuration > System Settings >> Data Manager Configuration Properties に追加されます。このシステム設定のデフォルトは 0 日で、無効を意味します。db-upgrade は、アップグレードが予期せぬ操作履歴を自動的に強制しないように、新しいシステム設定を追加します。自動パージおよび保持設定は、アラート履歴および履歴で利用できます。しかし、操作履歴はこれらの操作から除外されました。操作履歴を追跡するために各リソースに個別に実行する既存のオプションは受け入れられませんでした。JBoss ON では、オペレーション履歴の管理が改善されました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1115725](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1115725)

### Database

#### BZ#1069165 - Oracle 12c のサポートを追加

JBoss ON は、Oracle 12c をバックエンドデータベースとしてサポートするようになりました。Oracle 11c のライフサイクルは終了しました。

を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1069165](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1069165)

## スクリプトの起動

BZ#1061311: rhqctl には、サポートされない rhqctl スクリプトの結果となるユーザー変更可能な値が含まれています。

ドキュメンテーションが rhqctl スクリプトで記述されている方法は、ソースファイルではなく、環境変数をスクリプトで直接変更できることを提案しています。このスクリプトが後続の製品リリースで更新された場合、スクリプトを直接変更したユーザーは変更を失う可能性があります。スクリプトにより、/bin/rhq-server-env.sh|bat ファイルのサポートが追加されました。このファイルは必須ではなく、ツールが存在する場合のみソースになります。rhqctl スクリプトには、このファイルに関連するエラー処理が含まれており、環境変数が必要であるがユーザーが提供していないかどうかを検証します。rhqctl の改良された機能は、環境変数を指定する場所の混乱を削除します。を参照してください。 [http://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1061311](http://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1061311)

[バグを報告します。](#)

## ドキュメント履歴

改訂 3.3-65

2014-11-26

Jared イタリア

JBoss ON 3.3 GA 向け準備

新機能セクションのリンクの問題を修正しました。

手順について Install and Upgrade Instructions を削除し、インストールガイドにリンクしました。